



吉田東部地区まちづくり協議会
広報誌 No.23

4月21日(金) 平成29年度 吉田東部地区まちづくり協議会総会が開催され、新会長に多田武生、新副会長に三品正明が就任しました。

発行日 平成29年6月1日
編集 吉田東部地区まちづくり協議会
住所 巨理町吉田字大塚 185
電話 0223-36-8831
FAX 0223-36-8832
E mail wa.tukuri.yt@ia9.itkeeper.ne.jp
発行責任者 多田 武生

阿武隈川河口に隣する鳥の海、その南岸のあたりが大畑浜です。その昔徳川家康が豊臣氏を滅ぼした大阪夏の陣、小野但馬という人がこの地に逃れ住み着いたと伝わります。地区の半数以上を占める小野姓の祖で、**正福寺**に一族の墓があります。

住宅地図に塩田という地名があります。藩政時代には**巨理の四ヶ浜（箱根田浜、鳥屋崎浜、長瀬浜、大畑浜）は塩の生産地**で、中でも鳥屋崎と大畑浜には塩倉があり、仙台藩の役人が管理していました。その製法は入浜式と言ひ、塩田から塩砂を台坪に何度も汲み上げて濃塩にして煮詰めるものでした。明治末に塩専売法で管理されることになり、採算が合わず廃止となりました。太平洋戦争中の塩不足の時に復活し町外から多くの労働者が集まりましたが、塩の輸入により再び廃止されました。



明治43年地図

当時の鳥の海堤防は石積みで台風等に弱く、海水が流入しやすくボラやハゼが採れ、屋根心き用の茅取りの場所でした。その後、**強固な護岸堤防や排水機場が整備され、水害の心配が減り、水田化が進みました。**また、**巨理の特産として知られるいちご栽培は砂地に合う作物として、ここ大畑浜で始まりました。**

舟入川脇に**天台宗寺門派の大行院**があります。創建は古く1339年ですが、元は開墾場の観音堂にあったものが火災で焼失し、1846年に新田開発地のこの場所に再建したものです。雨乞い観音として信仰を集めました。



避難丘より蛭塚

ここ大畑浜は元々の北地区とやや小高い南地区があり、戸数は合わせて100を超えました。東日本大震災では人的、物的に大きな被害がありました。海から近いため住宅の新築が出来ず、橋本堀沿いに内陸堤防が予定され、現在戸数は22軒と大分少なくなりました。近くに避難丘が整備され、鳥の海と蛭塚、地区内を見渡せる所となっています。（郷土わたりを参考にしました）
(佐々木)

編集後記

4月に入学したピカピカの1年生も2ヵ月が過ぎ、通学路での元気な挨拶も誇らしげです。吉田東部まちづくり協議会も新年度に入り、新体制となりました。編集委員会もよりよい紙面作りを目指して地域の皆さんの声に耳を傾けてまいりますので、今後ともよろしくお願ひ致します。（星野隆一、佐々木寛、佐藤トシ子、高倉進）



次回は9月1日発行予定です。

会長あいさつ



会長 多田 武生

29年度の定期総会で、会長に就任いたしました多田武生です。吉田東部地区まちづくり協議会は、地区の町内会を中心に各種団体で構成された住民自治組織です。より良い地域づくりを目指した「地区計画書」を策定し、3部会（安全、元気、健康）が中心となり各種事業活動を続けています。津波防災工事も整備されつつありますので、これまでの地域内交流活動から、鳴り砂海岸をはじめ地域の資源を活かした地域づくりにも力を入れていきたいと考えています。引き続き、地域の皆さまのご協力をお願い申し上げます。

役員名簿

| 役職名 | 氏名 | 行政区 | 摘要 |
|-------|--------|------|------------------|
| 会長 | 多田 武生 | 浜吉田西 | |
| 副会長 | 三品 正明 | 新丁 | |
| | 大堀 由美子 | 浜吉田北 | 吉田地区民生委員児童委員協議会 |
| 監事 | 鈴木 俊 | 大畑浜 | 区長 |
| | 片岡 義隆 | 開墾場 | 区長 |
| 理事 | 菊地 優 | 一本松 | 区長 |
| | 阿部 久男 | 新丁 | 区長 |
| | 小野 清一 | 長瀬浜 | 区長 |
| | 渡邊 政彦 | 野地 | 区長 |
| | 田辺 直正 | 浜吉田東 | 区長 |
| | 浅川 浩成 | 浜吉田西 | 区長 |
| | 佐藤 努 | 浜吉田西 | 副区長 |
| | 竹澤 達雄 | 浜吉田北 | 区長 |
| | 加藤 郷司 | 開墾場 | 吉田地区民生委員児童委員協議会 |
| | 佐々木 隆夫 | 浜吉田東 | 吉田地区体育振興会 |
| | 平間 文子 | 野地 | 吉田地区婦人防火クラブ連絡協議会 |
| | 横山 敏彦 | 浜吉田北 | |
| 部会長 | 福本 眞 | 浜吉田北 | 安全部会 |
| | 鈴木 義男 | 浜吉田西 | 元気部会 |
| | 田代 宗夫 | 浜吉田北 | 健康部会 |
| 会計・書記 | 氏家 敏彦 | 浜吉田北 | 事務局長 |
| 顧問 | 吉田 美和子 | | 巨理町吉田地区交流センター所長 |

-今後の事業のお知らせ-

救命入門コース講習会

大切な人、家族を守るため心肺蘇生法やAEDの使用方法和救命に必要な応急手当を学びます。



開催日時：**6月24日(土)**
9時30分～11時30分

料理教室

- ・キーマカレー
- ・クラゲ甘酢漬け
- ・黒胡麻ゆべし



開催日時：**6月26日(月)**
10時開始

いきいきと今を楽しく、生きがいの場所

五月晴れの早朝、鳥の海沿岸部、皆で整備したグラウンドゴルフ場にたくさんの笑い声が聞こえています。「大畑浜グラウンドゴルフ愛好会」は、会員数27名で**木曜日と日曜日の週2回**活動しています。会員は大畑浜地区と吉田浜地区の顔見知り同士が多く、皆で集まり体を動かしたり、イベントの計画などをする事で介護予防にも役立っています。

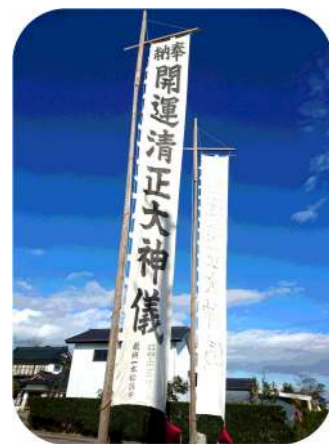


グラウンドゴルフは打数を争いますが、ここではより解り易くホールインワンの数を競いあいます。**1回のホールインワンごとに会費を収めるルール**で、集めた会費などで茶菓子、食事会、忘年会、温泉旅行を楽しんでいるとのこと。小野賢治会長は「**気心の知れた仲間がここに集い、楽しく過ごし、いきいきと今を楽しんでいます**」と話され、ホールポストをめがけて一打することに笑い声が絶えないみんなの生きがいの場所となっています。(星野)

心をつなぐのぼり旗

かつては、集落の祭り日にはこのような大きなのぼり旗が見られました。この旗は一本松区の守り神として親しまれている神社、**清正公堂(せいしょこどう)**のもので、昭和28年に作られ、契約会の人達の手で年2回4月と11月に立てられてきました。

清正公(せいしょこ)とは武将、**加藤清正の親しみの呼び名**、公は日蓮宗の熱心な信者、この地区に最初に住んだ山本家も同じ宗派だったことから公を氏神様として居住地内にやしるを建てて祀りました。その後この地に移り住んだ人達も心の拠り所として信仰し、今でも区の大事な神様として親しまれています。(高倉)



亶理町総合防災訓練に参加しましょう!

吉田東部地区にも多くの犠牲者と多大な損害をもたらした2011年3月11日の**東北地方太平洋沖地震**(マグニチュードM9.0、東日本大震災)はまだ記憶に新しいものがありますが、**1978年宮城県沖地震**(6月12日、M7.4)も忘れてはいけない地震の一つです。宮城県では、県民の防災意識を高めるため、6月12日を**県民防災の日**と定め、この日を中心に各地で防災訓練が実施されています。



今年の**亶理町総合防災訓練**は**6月11日(日)**に行われます。今年の訓練は、午前9時頃の発災に引き続き、行政区ごとに独自の災害を想定した避難計画で実施されることになっています。例年のように、地域ごとに大津波を想定した吉田小学校・亶理中学校への避難行動ではないので、各地区の区長さんの指示に従い注意して参加してください。

小中学生は、当日は出席の扱いになっていて、発災時に在校あるいは在宅、それぞれの居住地域の計画に基づいた避難行動をすることになっています。

訓練参加に合わせて、各家庭の非常持ち出し品、備蓄品などの**防災用品の確認**もしておきましょう。(安全部会)

各地区老人会を巡って -No.1 野地長寿会-

野地老人会から7年前に改称しました。確かな記録はありませんが、吉田地区連合会等の文書の記述から、結成以来50年は経過しているものと思われます。



◆組織の現状と活動状況

先般の大震災により区内の人口は半減し、会員数も減ってしまったため一時は老人会解散の声もありました。しかし、内部から高齢者同士が助け合い自立していこうという声があがったことから、皆で声を掛け合い新規会員の推奨に取り組み、現在27名の会員となっております。特徴としては、夫婦での加入が8組あり、各種行事にも夫婦で積極的に参加しております。

◆年間の活動計画

- ・毎年4月上旬 長寿会総会を行い、その後花見を兼ねて懇親会
- ・今年度は5月9日 県道相馬亶理線と自宅周辺のゴミ拾い
- ・6月初旬 野地集会所前の花植え
- ・9月～10月 会員の親睦を深めるための1泊旅行
- ・各種行事のスポーツ大会への参加
- ・連合会、お楽しみ演芸会への参加
- ・年末の忘年会、または新年会の開催



(佐藤)